

# こころでわかる支援者エンパワメントセミナー

—強度行動障害と呼ばれる人びとと共に地域で生きる—

自傷や他傷・こだわり・もの壊し・多動など、強度行動障害と呼ばれる人びとを通して、  
知的(発達)障害者の「支援と関係性」を考える。

- 〈講師陣〉 浜田 寿美男 (奈良女子大学名誉教授・発達心理学、法心理学)  
村瀬 学 (同志社女子大学教授・児童文化、障害児教育)  
高岡 健 (岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学准教授・精神科医)  
西川 勝 (大阪大学コミュニケーションデザイン学専攻特任教授・臨床哲学・看護師)

2014年3月22日(土)		1日目プログラム(予定)	講師
10:00 (受付9:30~)		オリエンテーション	(EPO)
①10:10	<input type="checkbox"/> 人は誰でも「こだわり」を生きているんじゃないのか —密かな「こだわり」から、迷惑になる「こだわり」まで—		村瀬 学
②11:20	<input type="checkbox"/> 行動が障害されるとはどういうことか —自ら選んだ行動と選ばされてしまった行動のあいだ—		高岡 健
③13:20	◇ 強度行動障害の人の地域生活移行支援に取り組んで —Sさんの死を通して(支援中の事故概要)		林 淑美/創思苑理事長
④14:40	<input type="checkbox"/> 看護する者としての苦悶であり続けたケア		西川 勝
⑤16:00 -17:10終	<input type="checkbox"/> 「ままだらなさはみんな同じだけ —分かる「ままだらなさ」と分からない「ままだらなさ」—		浜田 寿美男
2014年3月23日(日)		2日目プログラム(予定)	講師
①10:00	◇ <強度行動障害と呼ばれる人への支援風景> -DVD上映 ◇ <入所→通所・グループホームへ> -地域生活の不安とプレッシャーに寄り添う 事例報告1 「負のスパイラル。興奮していくと止まらない」 —Sさん(自閉症、双極性感情と愛着の障害) 事例報告2 「入所生活28年から地域生活へ」 —Oさん(コミュニケーションの困難、強いこだわり) 事例報告3 「本当は水なんか、飲みたくない」 —Fさん(自傷他傷のパニック、強いこだわり、水中毒) ◇ <不安もあるけれど地域生活は楽しい> -地域移行した永井さんが語る		支援者 & 知的(発達)障害者 /創思苑「通称パンジー」
②13:20 -16:30終	◇フォーラム:強度行動障害と呼ばれる人びとを通して-「支援と関係性」を 考える(事例報告を受けて) ◇トークの場 -全体の質疑応答&まとめ		村瀬学・高岡健 西川勝・浜田寿美男 (事例報告者の応答含む) 講師陣&参加者

■期日 2014年3月22日(土)、23日(日)の2日間 ■会場 大阪府社会福祉会館(谷町6丁目) ■受講対象  
知的(発達)障害者の支援にかかわる方、並びに本テーマに関心のある方(福祉・教育・保育・相談・行政・司法・医  
療・大学の各機関・現場等) ■受講料 10,000円/2日間(資料代込み) \*主催 - 障害者と支援者をつなぐ -

■申込先 FAX:06-6320-6068 メール:npoepo@nifty.com エンパワメント・プランニング協会(EPO)

—みなさま、お久しぶりです。2009年、2010年、そして東日本大震災直後の2011年と、3年連続で行ってきたこのセミナーです  
が、3年の間をおいて2014年、久しぶりに開催されることになりました。いつも名ばかりのセミナー長で、トリオを組んできた村瀬学  
さん、高岡健さんに支えられて、そのときそのときのテーマをなんとかこなしながら、障害者の支援について現場から多くのことを  
学ばせていただきました。今回は、介護・看護の体験のうえで臨床哲学の世界を開いてこられた西川勝さんに  
加わっていただき、「強度行動障害」と呼ばれる人々の問題を議論する予定です。

このテーマが上ってきたきっかけは、強度行動障害の方が支援中の事故後に亡くなるという不幸な出来事  
が身近で起こったことでした。一見私たちの理解を超えているように見えるこの人たちの世界に、私たちはどの  
ように入り込むことができるのか。あるいはその理解の限界を見据えて、それとどう付き合えばよいのか。今回も  
またこの難しい課題を皆さんとともに考えてみたいと思っています。(EPOセミナー長・浜田寿美男) —

\*申込書は裏面に掲載。



氏名			男・女 (20・30・40・50・60歳代以上)
住所	〒(自宅・職場)		
連絡先(自宅・職場)	電話番号		FAX
	メールアドレス		
自己紹介(所属団体・職業・活動 etc.)			

\* お問合せ: TEL 06-6324-1133 \* 申込締切り: 定員になり次第 (1日のみの特別参加はご連絡ください)

<講師から>-----キリトリ線: 切りとって上記部分を FAX にて申し込みください。-----

<p><input type="checkbox"/> 「ままならなさはみんな同じけど -分かる「ままならなさ」と分からない「ままならなさ」</p> <p style="text-align: center;"><b>浜田 寿美男</b></p> <p>「人の世はままならない」。じっさい周囲の状況や他者は自分の意のままになりません。しかし、じつはそう嘆いている自分自身もまた「ままならない」もの。身体がままならない身体障害はもちろん、こころだって自分で左右できません。たとえば誰かに恋心を抱いたとして、相手が振り向いてくれなければ、それこそ「ままならない」し、それじゃ諦めて自分のこころの方を抑え込もうとしても、それもまた「ままならない」。未練を断てず、ストーカー行為に走る人だっています。ただ、この「ままならなさ」は、当人がそれを乗り越えるのは難しいとしても、理解はできます。言ってみれば、分かる「ままならなさ」です。一方、強度行動障害と呼ばれる人たちの「ままならなさ」は強烈なうえに、それはしばしば私たちの理解を超えてしまします。言わば分からない「ままならなさ」です。この二つの不自由がどう同じで、どう違うのか。ここでは、そのことを考えてみます。</p> <p><input type="checkbox"/> 人は誰でも「こだわり」を生きているんじゃないのか -密かな「こだわり」から、迷惑になる「こだわり」まで</p> <p style="text-align: center;"><b>村瀬 学</b></p> <p>定年に近づくと、自分が何かにこだわって生きてきたことがわかります。浜田先生も「自白」に飛び抜けたこだわりを示してこれ、高岡先生も「診断名にこだわらない」というこだわりを示してこれて..いやいや、それは「こだわり」というんじゃないのよ、専門用語で「けんきゅう」というのよ、と叱られてしまいそうですが、うーん、そうかなあ、と思うこともあり..にぎり寿司一筋とか、宮大工一筋とかの職人さんの番組があるとうい見えてしまっている自分がいます。一徹とか、一筋の持つ魅力。時々トラックの後ろに。「夕子、一筋！」なんてど派手な愛の告白もあったりして..、「高倉健」や「フーテンの寅」さんの「よさ」がそんなところにあるんですが、でもその「よさ」は言葉にはできませんし、なりません。むしろ、映画では、一筋に生きるものの不器用さが、人生の破綻を招くようにも描かれてきました。一筋であることが、どこかで「身勝手」さや「思い込み」や「勘違い」のようになってゆく悲哀。でもみんなどこかで「寅さん」を生きているんじゃないのか、と思うところもあって、そういう言葉にならない「思い」をお話してきたらと思っています。</p>	<p><input type="checkbox"/> 行動が障害されるとはということか -自ら選んだ行動と選ばれてしまった行動のあいだ</p> <p style="text-align: center;"><b>高岡 健</b></p> <p>行動は意志によってもたらされる...それが古典的な考え方だ。では、行動が障害されるときは、必ず意志が障害されているということなのか。そうであるなら、行動の障害ではなく、意志の障害と言ってしまうれば済む話になる。だが、「意志に反して」行動してしまうことは、「強い意志を持って」やりとげることよりも多いくらいだ。つまり、行動は必ずしも意志に従うとは限らない。では、行動は、意志以外の何によって生起するのだろうか。</p> <p>ここが考えどころだ。人は自ら行動を選んだように見えても、選ばれている場合がある。(同じことだが、行動を選ばれているように見えても、ほんとうは自ら選んでいる場合もある。) &lt;わたし&gt; が選んだはずの行動と、&lt;あなた&gt; や &lt;世界&gt; によって選ばれたかもしれない行動とのあいだを、一度は考えてみる必要が生じるゆえんだ。</p> <p><input type="checkbox"/> 看護する者としての苦悶であり続けたケア</p> <p style="text-align: center;"><b>西川 勝</b></p> <p>10年ほど前になるだろうか、大阪大学の臨床哲学で「傷つけるケア」ということが話題になった。言い出したのは西川で、自分の精神科看護での経験をふり返っての提言だった。しかし、少数の人を除いて「傷つけるケア」というのは語義矛盾で検討するに値しないと論難された。ぼくには反論するだけの言葉がなかった。</p> <p>精神科病棟では、患者に対する身体拘束や行動制限が、治療や保護を名目に行われているのが日常だった。物理的、化学(薬剤)的、(社会・法)制度的な方法のみならず、看護という方法もあった。自傷・他害の予防であれ、事後の対処であれ、患者は自らの意志とは無関係に、つまり暴力的に抑制される。患者のためを思っの抑制であっても、容易に善悪の区別はつけがたいことが看護する者としての苦悶であり続けた。</p> <p>現在も「傷つけるケア」という難問から逃げることはできていない。今回のセミナーでは、この問いに挑む。</p>
---	---

○会場 : 大阪府社会福祉会館 大阪市中央区谷町7-4-15 Tel: 06-6762-5681(代)

<地下鉄の最寄り駅> \*【谷町線】か【長堀鶴見緑地線】「谷町6丁目駅」下車、④番出口(南へ200m)約5分。

\*【谷町線】か【千日前線】「谷町9丁目駅」下車、②番出口(北へ500m)約10分。

所要時間 ●大阪駅→地下鉄(東梅田経由)20分 ●天王寺駅→地下鉄(谷町線)15分 ●難波駅→地下鉄(谷町9丁目経由)20分